

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	総合芸術コース 音楽文化専攻	対象学年	全学年
講義日	令和8年9月3日(木)・9月10日(木)		
テーマ	合唱の楽しさを味わおう		
講 師	合唱指揮者 兵庫県合唱連盟副会長 矢田 正一		
講義内容			
1. 目標			
合唱の楽しみ方は2人から大人数までいろいろな形態がありますが、シルバーカレッジでは全学年の大人数学生による合唱の楽しさを体験していただきます。			
多くの人の声を重ねて表現する合唱が、生きる喜びにつながるようにと期待しています。			
2. 内容			
基礎理論の理解			
読譜力、固定ド唱法と移動ド唱法			
日本における合唱の黎明期			
発声の基礎			
美しい声と声量			
効果的な発声による歌唱力を身に着ける			
ハーモニーの理解			
表現力を高める合唱への挑戦			
生涯忘れられない名曲の合唱版			
3. 名曲を合唱で			
表現なくして成り立たない音楽のすばらしさを、名曲に乗せて			
楽しく体験しましょう。			
講師からのメッセージ			
大きな声量で歌えば、健康に良いことがよく知られています。同時に腹筋を鍛えて歌うことで、寿命が延びることを実感しましょう。さらに表情豊かに歌う喜びを体験するとともに、声を重ねる合唱の楽しさを存分に味わいましょう。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	総合芸術コース 音楽文化専攻	学年	1 年
講義日	令和 8 年 6 月30 日(火)		
テーマ	音・ひと・くらし –身近な音響学–		
講 師	神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 教授 阪上 公博		
講義内容			
1. ねらい みなさんは主として音楽文化の理解を深めるために、音楽に関連する諸学を学ばれるわけですが、音楽のもととなる「音」そのものについて、理解を深めることで、人間と音との関わり、ひいては音楽との関わりへと、さらに幅広い知見を身につけていただくのが狙いです。 2. 主な内容 本講義では、テーマを「音・ひと・くらし」と題して、さまざまな場面での音と人間の関わりを考えてみたいと思います。「音」は物理現象であると同時に、耳で感じる聴覚事象でもあります。本講義では理論的な内容は最小限として、身近な音の話題を取り上げます。 (1) 音と人間 ひとが音をどのように聞いているか、音はどのように伝わるかを、身近な例を挙げてご紹介します。 (2) 音とくらし 音が人間のくらし、そして街、ひいては社会にどのようにかかわっているか、音環境学、都市音響学と呼ばれる分野の立場から、ご一緒に考えてみたいと思います。 (3) 音と音楽 みなさんが学ぶ音楽を「聴く」ための空間について、建築音響学と呼ばれる分野の立場から、実例を挙げてご紹介します。			
講師からのメッセージ			
音響学の立場から音と人間の関わりを考えてみたいと思います。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	総合芸術コース 音楽文化専攻	学年	1年
講義日	令和8年 6 月 23 日(木)		
テーマ	唱歌と童謡		
講 師	大阪芸術大学教授 吉良武志		
講義内容			
わが国の唱歌や童謡はどのように誕生したのでしょうか。 明治期、学校教育の中に教科「唱歌」として音楽を取り入れた経緯を概観することから始め、「言文一致唱歌」「童謡運動」、戦後の「新しい子どもの歌」と辿っていきます。 歴史を学習するだけでなく、その時代に歌われた歌をみんなで歌いながら、音楽文化の流れを感じ取っていただきたいと思いますと考えます 後半には、小学校の音楽教科書の中から、講義時期に合わせた教材を扱って参ります。 I. 音楽の伝来 II. 唱歌の誕生 ・学制 ・伊澤修二の留学 ・メーソン先生との出会い ・音楽取調掛 ・「小学唱歌集」 III. 教育の場に来た世界の民謡 IV. 新しい歌の台頭 ・言文一致唱歌 ・滝廉太郎 ・月刊雑誌『赤い鳥』と童謡運動 ・ラジオとレコード V. 戦後、子どもの歌の新生 ・『鐘の鳴る丘』(連続放送劇) ・放送番組の変化			
講師からのメッセージ			
前述の通り、歌いながら講義内容を感じ取っていただきたいと思います。 音楽のない民族はありません。(厳密には楽器を持たない民族はいますが、歌のない民族は存在しません)			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	総合芸術コース 音楽文化専攻	対象学年	1 年
講義日	令和8年5月 11 日(月)、6月9日(火)、7 月7日(火)		
テーマ	呼吸法と初歩の発声(1)(2)、(3)(4)、(5)(6)		
講 師	声楽家 町田 百々子		
講義内容			
1. ねらい			
楽器としての自分の体を認識し、より良い発声を身につける。			
2. 主な内容			
(1) 体の使い方を理解する			
(2) 声の出る仕組みを学ぶ			
(3) 発声のための呼吸法を実践する			
(4) 教材(日本歌曲・イタリア歌曲)を使って実際に歌う			
(5) 歌に適した発語を学ぶ			
教材:コンコーネ 50 番中声用			
赤とんぼ			
椰子の実			
カーロ・ミオ・ベン その他			
講師からのメッセージ			
みなさん、歌はお好きですか？			
「歌は好きだけど、大きな声が出ない」「人前で歌うのは恥ずかしい」と、様々な悩みをお持ちの方は多いと思います。でも声は鍛えれば生涯成長します！楽しんで歌いましょう！			